

≪狭山特別支援学校の活性化・特色化方針≫

種別	知的障害	学部・学科	小学部・中学部	R5.5.1 児童・生徒数	(男) 113 (女) 65	計 178
アクセス	西武鉄道 仏子駅下車 徒歩20分 西武バス狭山市駅西口～狭山グリーンハイツ「根岸新道」下車徒歩20分					
<教育課程等>						
<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの児童生徒にそれぞれのニーズに合わせた指導・支援を行う教育内容。 ・見通しを持って学習に取り組むための教材教具の作成。分かりやすい視覚支援ツールの活用。 ・小・中学部特別支援学校として、小中学部の良さを生かした教育活動の推進。 ・学びの連続性を重視した教育課程。 ・太田ステージを活用した児童生徒理解と、事例研究等の校内研究の推進。 						
<学校行事・部活動>						
<ul style="list-style-type: none"> ・各学部の児童生徒が一丸となり取り組む運動会・文化祭。 ・生活年齢の応じた活動で豊かな経験を積み重ねる宿泊学習。 ・障害特性に配慮した活動内容でみんなで楽しむ修学旅行。 ・それぞれのゴールを目指して頑張るマラソン大会（中学部）。 						
<家庭・地域との連携>						
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒、来校者等すべてに校内の施設、配置、動線が分かりやすくするために掲示物や廊下の表示を工夫。 ・近隣の小中学校との支援籍学習及びセンター的機能による情報交換や指導助言。 ・学校ホームページ等を通して本校の取組をさらに広くPRし、保護者、地域から信頼される学校作りの実施。 ・コミュニティ・スクールの導入による地域との連携強化。 						
<進路>						
<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度卒業生23名の進路 入間わかくさ高等特別支援学校普通科進学21名、職業学科進学1名。日高特別支援学校高等部1名。 ・入間わかくさ高等特別支援学校との連携。 ・狭山特別支援学校狭山清陵分校との連携。 ・中学部3年、保護者、教職員対象の見学会、体験学習をそれぞれ実施。 これらの取り組みにより、中学部卒業後のイメージを持てるよう指導。 ・高等部卒業後の視点を大切にしたカリキュラム・マネジメントを計画的・組織的に行い、入間わかくさ高等特別支援学校等と児童生徒、PTAとの連携を強化。 						

育成方針

県立狭山特別支援学校 自分で考え、仲間とともに生きる。



マスコットキャラクター
茶娘ちゃん

学校教育目標

(目指す子ども像)

さ さえあう や りとげる ま なびあう

たくさんの行事で育みます

- ☆汗いっぱいがんばる運動会
- ☆歌や踊りをみんなと発表する
びかびか祭り(文化祭)
- ☆みんなと一緒に宿泊学習
遠足、社会体験学習



キャリア教育を推進

- 学習の中での取り組み
- 家庭との連携
保護者対象の
進路講演会
公開学習会
進路先見学会

小学部低学年

- 自分の気持ちを伝え、たくさんの
人と関り合いながら一緒に活動する。
- ☆「やってみたい」「やってみよ
う」と自分から取り組む。

中学部

- 集団生活に必要な能力や態度を養い、
よりよく生活していく力を育てる。
- ☆作業学習「紙すき」「農園芸」
「織物・手芸」「革工芸」を通じて仲間
と一緒に学び、楽しむ力をつける。
- ☆卒業後を見据え、目標・希望を持って
見学・説明会・体験学習に参加する。

小学部高学年

- ☆集団を意識し、みんなと一緒に活動
する力を育てる。
- みんなと一緒に楽しく学びあう力を
育てる。



支援籍では、
居住地の小、中学校で
楽しく勉強をします。

個に応じた支援・指導の充実

- 児童生徒が見通しを持ちながら
学習する支援ツールの活用
- 校内構造化への取り組み校内表示の充実。

卒業後の進路先

自らの進路選択

高等部普通科

高等部職業学科

分校・高等学園

就労(一般・福祉)

自主性
社会性

埼玉県立狭山特別支援学校

私たちの宣言

私たちは、一人一人を大切に
する指導の充実をするために、
子どもたちの自立をめざし、
個性を大切にしながら、
可能性を最大限に伸ばす
支援を行います。また、
支援・指導方法を充実する
ために学級、学年、学部
の会議などで情報を交換し
合いながら個々の教員の
得意分野を活かし、一人
一人の子どもたちの実態
に合った指導・支援を
進めます。

狭山特別支援学校には、小・中学部の本校と、高等部の狭山清陵分校があります。